

沿革

- 1975年10月 新宮市に施設建設陳情
- 1978年 9月 プレハブで作業開始
指導員2名、利用者7名
ハガキ、名刺印刷、縫製等が主な作業
- 1981年 6月 新宮市新宮に移転(市隣保館の一階を借用)
- 1983年 7月 法人化準備委員会結成。指導員3名体制
- 1987年 利用者18名となる
- 1989年10月 新宮市より障害福祉に功労ありと表彰される
- 1993年 6月 社会福祉法人わかば福祉会設立発起人会発足
- 1994年11月 社会福祉法人わかば福祉会認可
- 1995年 4月 法人施設として発足
- 2003年 4月 定員30名から38名へ
- 2004年 4月 かみくらホーム(グループホーム)開始
- 2010年 4月 国制度のグループホームに移行
- 2010年11月 新体系に移行
生活介護事業 定員16名
就労継続支援B型 定員22名
- 2011年 4月 グループホーム定員10名に増員
- 2015年 1月 わかば園第二作業所開所20名定員
サテライト型ホームを開始(1名)
グループホーム定員11名
- 2017年 2月 グループホーム定員10名
- 2017年 3月 わかば園作業所の就労継続支援B型 定員20名
- 2017年10月 グループホーム定員11名
- 2018年 8月 グループホーム定員12名

わかば福祉会の目的

「利用者が個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的とする。」（定款第1条より抜粋）

- 障害者本人、その家族そして地域社会から信頼され、頼りにされた施設であり続けたい。
- 一般就労が困難とされた方でも、本人に就労意欲があり適切な配慮を整えることにより就労が可能な障害者には、社会的に有用な仕事を用意したい。同時に少しでもその価値が認められ、高い収入が得られるようにしたい。
- 就労に従事することが困難な障害者には、散歩や音楽等を通して日中を活動的となるように支援するとともに、利用者一人ひとりのニーズや発達段階に適した課題を取り入れた個別活動の充実を図りたい。

1)わかば園作業所(多機能型施設)

職員体制

生活介護(定員16名) 平成30年度利用実績 11.6人(2月まで) 常勤換算7.4人

職 種	氏 名	常勤換算	資 格	内 容
管理者	奥田 修子	兼務		リズム体操 音楽活動 クラフト アルミ缶回収
サービス管理責任者	瀬田 幸司	兼務	介護福祉士	
生活支援員	岸野 結子	1	介護福祉士	
生活支援員	長谷川 功	1		
生活支援員	添谷 嘉紀	0.9		
生活支援員	堰本 美智代	0.9	介護福祉士	
生活支援員	森本 邦弘	0.9		
生活支援員	下川 美紀子	0.9	介護福祉士	
生活支援員	田ノ下 昭子	0.9	介護福祉士	
生活支援員	谷口 悦子	0.6		
生活支援員	岡本 正	0.2	介護福祉士	健康管理
看護職員	新谷 加代	0.1	准看護師	
医師	二村 昭		医師	

就労継続支援B(定員20名)平成30年度利用実績 20. 2人(2月まで) 常勤換算5. 7人

職 種	氏 名	常勤換算	資 格	内 容
管理者	奥田 修子	兼務		農耕 外部委託事業 乾燥ひじき製造 清掃 アルミ缶回収
サービス管理責任者	瀬田 幸司	兼務	介護福祉士	
目標工賃達成指導員	上地 昌代	1	介護福祉士	
生活支援員	的場 千賀	1	保育士	
職業指導員	立嶋 美佳	1	介護福祉士	
職業指導員	堀池 龍司	1	介護福祉士	
職業指導員	松原 寛	0. 9		
職業指導員	岡本 正	0. 8	介護福祉士	

共通の職員

職 種	氏 名	常勤換算	内 容
事務主任	西畑 殖夫	0. 6	経理・請求等の事務
事務	中島 愛	1	経理・請求等の事務
調理員	榎本 恵一	0. 8	献立・調理一般
調理員	藤田 一恵	0. 6	調理一般
送迎員	山本 忠康	0. 3	送迎

生活介護事業について

入浴、排せつ及び食事等の介護、調理、洗濯及び掃除等の家事並びに生活等に関する相談及び助言その他の必要な日常生活上の支援、創作活動又は生産活動の機会の提供その他の身体機能又は生活の能力の向上のために行われる必要な援助を行います。その対象は以下の者です。

- ① 障害支援区分3以上である者
- ② 年齢が50歳以上の場合は、障害支援区分が区分2以上である者

のびのび班

- 1) 個々の特性や必要なニーズを把握するよう努め、本人に合った支援を目指します。また、落ち着いた環境でそれぞれに合った自立課題の提供をします。個人個人が安定して過ごせる様(場所に馴染む、座っていられる様)課題の中身を考えます。本人の為になる課題を提供し達成感を得てもらえるように努めます。
- 2) 保護者、関係機関との連携を深め問題が生じた時などの迅速な対応をおこないます。医療機関や相談支援センター、グループホームなどと連絡を取り合い利用者の様子を共有して行きます。

- 3) 音楽活動を通じて得た経験を発表する機会を持ちます。共に音楽活動を行うことで参加者同士に連帯感を持ち楽しい時間を過ごします。楽しみながら多感覚に働きかけ心身能力の維持改善に役立てます。良い意味で緊張感や達成感を味わい、リハビリ効果も期待します。自己肯定感を感じ、生きる力に繋がります。
- 4) 支援員としての技術や知識を研鑽する為に研修会などに積極的に参加します。障害の基本的知識、自閉症の方の困難さの解決の仕方、困っている利用者への対応など。利用者さんが笑顔でよりよい生活をして頂ける様職員一同日々努力し支援していきます。

就労継続支援 B 型について

生産活動その他の活動の提供、その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援をおこないます。その対象は以下の者です。

- ① 就労経験がある者であって、年齢や体力の面で一般企業に雇用されることが困難な者
- ② 50歳に達している者又は障害基礎年金1級受給者
- ③ 上記以外にも就労移行支援事業所等によるアセスメントにより、就労面に係る課題等の把握が行われている者で、利用を希望する者

よろず班

- 1) 自走式草刈機を活用し、作業の効率化を図ります。
 - (ア) 福祉事業所等の紹介で草刈り等の依頼が増えてきています。今後も積極的に取り入れます。(高齢者や障害者からの依頼仕事)
 - (イ) 新宮港緑地を新宮市と維持管理契約を結び年間維持管理をします。時期にもよるが、毎月10日位を目途にして、定期的に他の作業を組み込みます。
- 2) 農耕班と連携した除草・剪定・農耕作業をおこないます。
- 3) 夏場の体調管理で熱中症対策として、午前と午後の交代で屋外の作業を行う等の工夫を図ります。
- 4) 雨天時は箱折り作業を取り入れます。時期によっては依頼がない事もあるので他の班や第二作業所への応援も取り入れます。
- 5) 作業を通して、各個人の長所を活かしスキルアップを図ります。一人ひとりが作業の中で目標をもって、取り組めるように働きかけます。
- 6) 作業の中での見極め等(どこまでやれるか、どうするか)もできる利用者を育成していきます。

農耕班

- 1) よろず班と共同作業で新宮港の除草・維持管理をおこないます。

除草・維持管理を行うについて、自走式草刈機の取り扱い・管理を覚えます。

昨年とほぼ同じ規模の畑の維持・管理に努めます。

- 2) 作業の効率を高める為、各作業の(土作り、種まき、耕運、除草等)作業評価を半年毎に個別におこないます。
- 3) 自走式草刈機を上手に活用(井田の八朔畑等)することにより、畑・果樹の管理をより良い状態で維持します。
- 4) 雨の日は、ひじき班や掃除班と合同で作業をおこないます。

掃除班

- 1) 道具の正しい使い方を取得し、その場に応じた効率的な使い方ができるよう実践の場所だけではなく練習する機会を作り、達成意欲を高めます。また、道具を大切に扱う事の重要性を身に付け、経費削減に努めます。
- 2) 県庁舎の掃除や杉の郷の掃除において、誰もがどのポジションも出来るようになるよう、交替を行いながら練習をしていきます。また、それぞれの得意不得意分野も見極め、適材適所に応じた作業を提供します。
- 3) 助け合いの気持ちを身に付け、「ひとりはみんなのために」「みんなはひとりのために」頑張れるようなチームワーク作りに取り組みます。
- 4) ポリッシャー掃除の専門家の方と相談をし、自分達に合ったポリッシャーを購入し、専門的な掃除が出来る様、園内にて練習をおこないます。また、出来るようになったら、新聞広告などで掃除をさせてもらえるところを募集し、更なる工賃向上に努めます。
- 5) 余暇活動を充実させるよう、レクリエーションの計画を綿密に立て、利用者さんの「生きる力」に繋がるような活動を提供します。

ひじき班

- 1) ラベルの間違いを無くすため、また、利用者がラベルを作成できるようにするためにラベル専用機を導入します。
- 2) 計量間違いを無くすため、作業工程を変えて取り組みます。
- 3) 販路を拡大するため、商談会に参加します。
- 4) 新商品(長折れひじき)を拡げます。
- 5) 安全性を高めるため、金属探知作業を三度行い、最終確認は職員がおこないます。

職員の役割分担

役 割	担 当 職 員
諸記録	奥田修子・瀬田幸司
後援会・保護者会	奥田修子
利用者の自治会・給食会議	奥田修子・立嶋美佳
健康診断・衛生推進員	奥田修子・中島愛
防災訓練・災害対策	奥田修子・瀬田幸司
施設整備・管理	奥田修子・中島愛・瀬田幸司
ホームページ	奥田修子・中島愛・的場千賀
たより発行	奥田修子・立嶋美佳
職員研修	奥田修子・瀬田幸司
虐待防止担当職員・人権擁護	奥田修子・岸野結子
送迎	奥田修子・岸野結子・山本忠康
事務全般	奥田修子・中島愛
給食全般	奥田修子・榎本恵一・藤田一恵
自立支援協議会・就労部会	奥田修子・瀬田幸司

職 員 研 修 計 画

内 容	参 加 者
虐待防止研修	全員
人権研修	全員
就労技術研修	就労担当職員
サービス管理責任者養成	該当職員（GH, 就労・生活介護）
グループホーム研修会	世話人・支援員
請求等事務一般	事務職員
レクレーション・音楽等	生活介護担当職員
衛生・給食	厨房職員
事例・作業工程研究会	現場職員全員
資格取得（福祉士等）	該当職員

上記以外にも職員からの積極的な研修への申し入れについては、内容を吟味した上で参加させる予定です。

2) わかばグループホーム

グループホームとは、身体・知的・精神障害者等が世話人の支援を受けながら、地域のアパート、マンション、一戸建て等で生活する居住の場をいいます。グループホームは、入所施設と比べると規模が小さく、数人で暮す生活の場です。したがって、グループホームにおける支援は、ひとりひとりのニーズに沿った支援をすることになります。

当法人は、グループホームを市内浮島地区と神倉地区で運営します。運営形態としては一体として行っています。

かみくらホーム 新宮市千穂 1-3-18 定員 4 名
うきしまホーム 新宮市浮島 3-10 定員 8 名

事業内容 共同生活援助

職員配置基準 世話人・支援員 4. 2 人

職 種	氏 名	常勤換算	勤務形態	内 容
管理者	久保 明美		常勤・兼務	障害者が地域で生活していく上での生活全般における支援を行う。
サービス管理責任者	久保 明美		常勤・兼務	
世話人	久保 明美	1	常勤・兼務	
世話人	高見澤千恵子	0.6	常勤・専従	
世話人	太地 美登	0.1	非常勤・専従	
世話人	森 操	0.5	非常勤・専従	
世話人	奥 百合子	0.3	非常勤・専従	
支援員	橋爪有紀子	0.7	非常勤・専従	
世話人	宮本 実	0.4	非常勤・専従	
支援員	伊藤 和美	0.6	非常勤・専従	

ホームの基本方針

- 1) 共同生活の中で、一定の役割分担を持ちながら、自分自身の居住空間を得て、自主的で自立的な生活ができるように支援します。
- 2) 入居者の家族や作業所と協力しながら、また、行政機関や地域社会とも連携して、入居者の安定した生活を支援します。
- 3) 季節ごとの行事などを取り入れながら、個々のニーズに合わせた休日や余暇の過ごし方を支援します。
- 4) 本人の独立心や自立心の芽生えと、培っている力を伸ばしながら、安心して穏やかに生活が送れるように支援します。

3) わかば園第二作業所(就労継続支援B型)

職員体制

就労継続支援B(定員20名) 平成30年度利用実績13.3人(2月まで) 常勤換算3人

職 種	氏 名	常勤換算	資 格	内 容
サビ管・管理者	中西 浩永		介護福祉士	卒塔婆・装束・護摩 木・布きん等の製造
生活支援員	鈴木 弘美	1	介護福祉士	
目標工賃達成指導員	中野 友妃子	1		
職業指導員	内門 なつほ	1	保育士	
調理員	山縣 伊津	0.4		昼食の準備・片付け

木工班

- 1) 最近注文を頂けなくなっているお寺様に連絡をして営業をかけて、塔婆販売目標数の24,000本を達成します。また、受注に迅速に対応できるようにするため、在庫量を増やします。
- 2) お燈関連製品も昨年同様に生産するように努めます。
- 3) 不良材料を再利用するため、別注サイズの七枚塔婆に挑戦します。
- 4) 商品の完成度を高めるために利用者の力量向上に努めます。

縫製班

- 1) 年間通して、井上企画(社)からの布巾製造の仕事は受け、今年度は2万枚を受注することを目標とします。(平成30年度は17,000枚)
- 2) ミシンで装束作りができる利用者をもう一名育成します。
- 3) 装束は昨年と同様に130着を制作します。
- 4) わかば布巾は、2,000枚程度を生産する予定です。